

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第71回 「箸」の妙技

今回は気分転換、「雑学」を一つ。小生、日本酒が大好きである。一年中ほぼ毎日、常温の日本酒を、茶碗でどかどかと呑んでいる。故に、たぶん小生の体内の水分は、ほとんど日本酒かもしれない。針を刺すと、ピュッと、酒が飛び出てくるような体型をしている。

日本酒が好きな故、どうしても食事は和食の機会が多い。フランス料理に限らず、和食にも、実はルールと言うかマナーと言うか、昔から培ってきた「決まり事」がある。その中で最近、特に気になるのは、「箸」の使い方である。これについても、やってはいけないタブーがあること、ご存知だろうか？ 今回は「箸」のタブー11原則である。

まず「移り箸」。とりかけていた途中から、他のものに箸を移すこと。

「かき箸」、茶碗や皿の中のものを箸でかきこむことを言う。納豆、生卵は別？

「探り箸」、器の中を、やたら探る行為。

「刺し箸」、箸で刺す行為は、基本的に綺麗に見えない。里芋は苦勞するかも。

「ねぶり箸」、箸をなめる。見ていても気持ち悪い。

「迷い箸」、箸を持ちながら、どれにするか迷う。

「寄せ箸」、箸で器を引く、食器を箸で手前へ寄せる仕草。

「横箸」、まるでスプーンのように箸を使う。

「涙箸」、汁気のあるものを挟んで汁をたらず。ビチョビチョになりそうである。

「渡し箸」、箸を食器の上に渡して置く。

「せせり箸」、食後に箸の先で、歯の間をほじくる。想像するだけでも気色悪い。

食事するに、こんなうるさいこと言われたら、おいしく食べられん！ 飯は楽しく、うまく食べれば、それが一番！！...きっと、お怒りになる方、必ずいるものである。そう、思い込んでいる人は、それでいいのかもしれない。あえて無理やり強要することもない。

食事のマナーとは、よく考えれば同席する人への配慮である。自分ひとりで飯を食べているのならば、どんな食べ方でも構わない。でも会食の場合、美味しく、楽しく食べるのは、自分ひとりでないこと忘れてはならない。回りに不快感を与える行為は、基本的にやってはいけないことである。それを、いかにも、日本的情緒感溢れる文言で言い表した「箸のタブー11原則」、とっても素敵な気配りではないだろうか。

強要はしないまでも、「汚い食い方」をしている奴とは、出来れば今後、一緒に食事をしたくない...そのように思ってしまうのは、道理というものである。